■柳河春三　　洋学者，啓蒙家。幕末に多くの著訳を成し，<維新>に，日本人による初の新聞を発行したが，早世。
やながわしゅんさん
鼠小僧磔・・1832＝　　名古屋大和町(名古屋市中区)で栗本武兵衛の子に生まれ，商家柳屋西村氏におさまる(母の連れ子)。

_幼にして神童の誉れ高く，
滑稽+人情本 1835＝ 3歳：_尾張侯の御前で書を巧みに書き，特旨で藩校就学。

大塩平八郎乱1837＝ 5歳：

天保改革始・1841＝ 9歳：_蘭学の師伊藤圭介著「洋字篇」を校訂，

阿部正弘首座1845＝13歳：

_蘭学を本草学者伊藤圭介・砲術家上田帯刀について学び，

国定忠治磔・1850＝18歳：*砲術の師上田仲敏のために「西洋砲術便覧」を著わす。

ペリー来航・1853＝21歳：
開国開港・・1854＝22歳：長崎に遊学，蘭英学を修め，

松下村塾・・1856＝24歳：_江戸に赴き，柳河春三と改称，2世桂川甫周の「和蘭字彙」校訂に参加，「洋学指針」「洋学便覧」を始め，
蕃書調所・・1857＝25歳：_西洋数学をアラビア数字で紹介した「洋算用法」を訳解，紀州藩の老臣水野土佐守忠央の知遇を得，
五ヶ国条約・1858＝26歳：_同藩に仕え，寄合医師として蘭学所に勤め70石を禄す間，
安政の大獄・1859＝27歳：
桜田門外変・1860＝28歳：
_西洋文明の紹介・移入に精力的に取り組み「洋学指針」「洋算用法」「法朗西文典」「写真鏡図説」などをはじめ医学・兵学など多方面にわたる著訳書を公にした。
8月18日政変 1863＝31歳：*以降，欧字新聞{ジャパン=コマーシャル=ニュース}{ジャパン=ガゼット}{ジャパン=タイムス}などを翻訳し，幕閣の参考に供するとともに，加藤弘之・箕作麟祥・渡部一郎(温)ら当時の洋学者と会訳社を組織して回覧新聞を編み，また「新聞蒼叢」を編纂した。この間，幕府蕃書調所(のち開成所)に出仕し，
禁門の変・・1864＝32歳：_開成所教授に進んだ。
大政奉還・・1867＝35歳：写真術の詳細を説明した「写真鏡図説」など啓蒙書を訳解。_わが国最初の{西洋雑誌}を発行し，
明治維新・・1868＝36歳：*日本人による最初の新聞{中外新聞}を発行するなど，日本ジャーナリズムの創成期に大きな功績を果たした。新政府の召命を受けたが固辞したが，開成所が新政府に引き継がれたため同所頭取として出仕。このあと制度の改革があって翻訳校正掛となり，
戊辰戦争終・1869＝37歳：_国史・風土記・国語辞書の編纂を建自し，大学少博士に任ぜられたが，佐幕的と免官になり，再度大学校出仕翻訳督務御用を命ぜられたが，
初の日刊新聞1870＝38歳：_肺結核のため急逝した。

日本人物誌叢書「廿一大先覚記者伝」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，